



2024年12月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2025年1月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

Free WiFi 設置しました
今年1年 お世話になりました
来年もよろしく お願いいたします

ホームページ

18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

「今月の言葉」

音楽は、言葉も国も宗教も政治も超えて、
人と人の心をつなげることができる
みんなでひとつになれる
～小澤征爾～

- ・12/28(土) 年内 最終診療日
- ・1/6(月)～ 診療開始

12月に寄せて — 思い出と感謝の祈り

12月に入り、年の瀬の慌たしさを感じます。寒い日が続きますが、皆さま体調は崩されてはいませんか？
喪中葉書が届く時期となり、あの方も亡くなったのか・・・とお元気だったころの姿を思い浮かべると言葉にできない寂しさで胸がいっぱいになります。年末になると、今年亡くなられた方々という追悼のコラムが組まれたりして「ああ、この方も亡くなったんだ」としみじみと懐かしさと寂しさの入り混じった気持ちになります。

ちなみに今年この世を去った方々のうち、小澤征爾さん、八代亜紀さん、マウリツィオ・ポリーニさん、星野富弘さん、中尾彬さん、大崎善生さん、北の富士さんなどは私にとってはとくに馴染み深い方々で、つい最近まで元気に活躍していたのと年月の経つ早さを痛感します。

12月は私にとって大切な人たちが亡くなった月でもあります。大学オケ時代にお世話になった指揮者の川越守先生は12月9日、私の父は12月26日、そして今回お話しする榊原寛牧師はクリスマスイブの2020年12月24日が命日です。
12年前、妻の父は癌の腰椎への転移のためある朝、突然下半身の麻痺が起り歩行できなくなりました。当時私が勤めていた病院へ緊急入院となり、緊急の放射線照射によって完全麻痺は逃れたものの車椅子となってしまいました。病状はすでに末期、緩和治療を受けている状態。なんとか励まそうと家族皆で面会に通っていましたが、入院中は希望の少ない毎日となってしまいました。妻は寂しそうな義父をなんとか力づけたいと考え、義父の話し相手になってくれるような牧師の先生を探し始めました。実は義父はかつて日曜日には教会に通う熱心なクリスチャンだったので、妻と一緒に病院から近いお茶の水クリスチャンセンターを訪れ相談させていただくことにしました。そこで出迎えてくださったのが榊原寛牧師でした。榊原先生は当時70代前半でちょうど義父と同年代の明るく元気な方で、私たちを温かい笑顔で迎えてくださったのが今も忘れられません。先生は我々の話に熱心に耳を傾け「私がお父さまのところへ伺います」と約束をしてくださいました。それから時間を見つけては病室の義父のもとに通ってくださったのです。義父と先生の二人が病室でどのような話をしていたかは分かりませんが、榊原先生との対話が義父の心の支え、慰めになっていたことは間違いありません。

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30

病室に行くと義父は榊原先生がくださった星野富弘さんの本や摘んでくださった野花を嬉しそうに見せてくれました。約束どおりずっと最後まで義父に寄り添ってくださった榊原先生には感謝してもきれません。義父はその後退院し2週間ほどで自宅で息を引き取りました。先生にはお葬式の司式や火葬場でのお祈りまでしていただきました。その後はときどき教会の日曜礼拝に家族で出かけたり、イースターの音楽礼拝とクリスマス礼拝はいつも家族4人で出席しました。我々がいくと先生は我々夫婦をわが子のように、子どもたちは孫のようにいつも温かい笑顔で迎えてくれました。一般的には教会での説教は聖書の話が中心でクリスチャンではない私には正直言ってピンと来ないことが多いのですが、榊原先生は聖書の世界から我々の生きる現代に置き換え、さらにダジャレやユーモアをたっぷり交えて話をするのでとても楽しかったです。

いつも元気な先生でしたが、ある時久しぶりに礼拝に何うと、何か滑舌が悪く、歩き方もおかしいところがありました。話を聞くと原因が不明で検査中とのことでした。2019年12月のクリスマス礼拝で牧師を退任すると知らせを受け、駆けつけると先生は車椅子の状態となっていました。いつものように笑顔でユーモアを交えた明るい最後の説教をされました。礼拝終了後は皆でサンドイッチやお菓子でティータイムとなりました。その中で先生は治療法のない神経系の難病のため、これから奥さまと一緒にケアを受けられるお住まいへ入居するとのお話がありました。そんな絶望的とも思える身体の不自由な状態でも先生はニコニコと笑顔を保つことはありませんでした。ティータイムの最後に私のヴァイオリンで皆で「花は咲く」を歌ったのですが、みんなと一緒に歌いながら先生のお顔を見ると、こらえきれず私は伴奏しながら涙が止まりませんでした。それからちょうど1年後のクリスマスイブに先生は天に召されたのでした。

私たちと会うときはいつもニコニコしていた「バラ先生」ですが、実は息子さんを6歳の時にトラックにひかれて亡くするという痛ましい経験をされています。同じく牧師であった奥様は「生涯二度と笑うことはできない」と思うほど、当時は悲しみのどん底に突き落とされたとのことでした。あの誰をも包み込むような温かい笑顔にはそんな悲しみを乗り越えた強さと優しさがあったのだと思っています。

世間ではクリスマスソングが街中に鳴り響く楽しく華やかな12月ですが、私にとっては今は亡き大切な方々との思い出を懐かしく振り返る月でもあります。

今年1年も大変お世話になりました。来年もみなさまにとって健康で良い年になるように心より祈っております。